

『函館ワンニャン物語』

《登場人物》

館岡 洋一 （五十五歳） 教師

* 幼い頃から捨て犬、猫を保護し、育ててきた
心優しき男。

館岡 聖子 （五十四歳） その妻

* 動物愛護に情熱を燃やす、心優しき女性

館岡 咲（二十五歳） 二女

* 動物を愛する心優しき女性

アニマルレスキュー代表

* 自分の財産を投げ打ち、保健所で処分寸前の
犬、猫の命を助ける活動に取り組む信念の
強い女性

《あらすじ》

平成二十一年、全国で最も魅力的な市区町村で函館市がナンバーワンに輝いた。異国情緒あふれる街「函館」、その風景・歴史的建造物はもちろんのことだが、真の理由はそこに住む人にあった。

おせっかい好きの、人情味あふれる優しき町、函館。
その街の片隅に、人だけではなく、動物にも献身的な「おせっかい」を降り注ぐ家族がいた。

館岡洋一は、子供の頃から捨てられた犬や猫を黙って見てられない性格だ。拾ってきては叱られ、拾ってきては叱られ、その繰り返しの中、「自分が大人になったら・・・」と、子供心に誓う。

社会人になった洋一は、教職の道を選ぶ。やがて、聖子と結婚する。聖子もまた、動物に対する深い愛情を持つ女性であった。

結婚して三十二年目、現在、館岡家では、犬を五頭、猫を四十三匹飼っている。そのほとんどが捨てられた犬や猫であり、保健所で殺処分寸前に助けた命である。館岡家には心温まる「四十八のドラマ」があった。

「動物を飼うことは、自分の命を削ること」誰かがこう言った。

正に、館岡家は全財産と全エネルギーを費やし、保護活動に取り組んでいた。

平成二十三年三月十一日、東北地方を未曾有の大地震が襲う。その影響は、函館にも及んだ。津波の影響で、震災が襲う。

目の前で、海の水がはるか沖まで引いていく。見えるはずがない海の底が見えている。

洋一と聖子は、決断を迫られる。

「四十八の命をどう守るのか。」

そして、この緊迫した状況の中で、二人が取った行動とは・・・。

「動物の命は平等だけど、その一生は出会った人で決まる」

究極の動物愛が、そこにあった。